

ハチ博士の ミツバチコラム

32



京都大学 園芸学部
バイオ環境学部
坂本文夫教授

古代遺跡の

ミツバチと蜂蜜

人類が地球上に登場したのは数百万年前と言われていますが、ミツバチが登場したのはその数倍古く、一千万年以上前だそうです。人類がいつ頃から蜂蜜を採取して食していたかは分かりませんが、狩猟生活をしていた先史時代に木の洞や洞窟の中などでミツバチの巣を見つけ、甘い液体を楽しんだのは間違いないでしょう。

人類が蜂蜜を採取していた最古の証拠は約一万年前のもので、スペイン・レバント地方のアラニアの岩壁画と呼ばれ

る影絵のような壁画です。梯子を使い岩壁の洞穴の中のミツバチの巣を採取して、籠の中に入れてようとしているハニータターの姿が大変写実的に描かれています。そう、ネパールのグルン族のハニータターと同じような方法で採蜜していたのですね。グルン族は今でも絶壁に営巣したヒマラヤオオミツバチの蜂蜜を、縄梯子を使って命がけで採っています。レバント地方で発見された絵画はアラニアの岩壁画を含めて七千にも上り、その時代の生活や文化の貴重な記録となっています。日本でも縄文時

代（一万年前から三千年前）の遺跡から調理したクッキーのような食べ物が出てきたそうです。化学的な分析でその中に蜂蜜が含まれているという結果が出たのですが、分析法に曖昧な部分があり、反論もあって確定していません。レバント地方の古代人のように絵心を持った縄文人が居て、どこかに蜂蜜を採取している絵やミツバチの絵を描いてくれているかも知れません。縄文遺跡の今後の発掘調査に期待が高まります。



イラスト おおくぼひとみさん